

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年2月6日  
函館市立大森浜小学校

1 本年度の重点教育目標

心豊かにたくましく 自らの未来を創り出す子（学校教育目標）  
チャレンジ はまなすの子 はりきって登校 まじめに学習 なかよく活動 すっきり下校（キャッチフレーズ）

2 本年度の取組の重点

1 はりきって登校プロジェクト      2 まじめに学習プロジェクト      3 なかよく活動プロジェクト  
4 すっきり下校プロジェクト      5 未来を見据えたふるさと教育      6 未来を見据えたインクルーシブ教育  
7 未来を見据えたキャリア教育

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

| 分 野       | 評価項目<br>※保＝保護者アンケート 児＝児童アンケート 教＝教職員アンケート(学校評価) 丸数字は質問番号                      | 自己評価結果 |                                                                         | 学校関係者評価  |          |                                                                                                                           |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------|--------|-------------------------------------------------------------------------|----------|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|           |                                                                              | 達成状況   | 改善の方策                                                                   | 自己評価の適切さ | 改善の方策の評価 | 主な意見（改善策など）                                                                                                               |
| はりきって登校   | 楽しいと感じる学校<br>保⑦90 児⑧90 教⑭83                                                  | a      | ・児童の自己決定や自己実現という観点でさらに見直しを図る。                                           | A        | A        |                                                                                                                           |
|           | 時間を守り言葉で伝えるどの子にも居場所のある学校<br>保①89 児①85 教①88                                   | a      | ・時間や言葉の重要性の理解をさらに深めていく。                                                 | A        | A        | ・朝、登校時、児童の元気な声での挨拶、特に笑顔が昨年より多く見られる。                                                                                       |
| まじめに学習    | 学習のきまりと家庭学習の相乗効果による学力の向上<br>保②92 児②88 教②82                                   | a      | ・学び方を含めた力をどの児童にも付けさせるために改善する。                                           | A        | A        |                                                                                                                           |
|           | コース別や交換授業による児童の学習意欲向上 児⑨66 教③83 と④85                                         | b      | ・児童の自己肯定感の向上を図る場を増やしていく必要がある。                                           | A        | B        | ・児童の66%が気になります。<br>・児童の意見が知りたいです。                                                                                         |
| なかよく活動    | 生活ルールからマナーにつなげた安心できる学校（いじめ見逃し0）<br>児③90 教⑥92                                 | a      | ・自己指導能力を高める働きかけを続けていく。                                                  | A        | B        | ・授業中の態度は保護者に報告して連携を。                                                                                                      |
|           | 集団的な関わり（協働的な学びの場）の確保<br>保③70 児⑩92 教⑦76                                       | b      | ・児童は協働的な学びに手応えがあるが、振り返りや改善等、学びの質を高める場を設定していきたい。                         | A        | A        | ・各町会の情報収集、特にイベントやキャンペーン等の紹介による地域参画意識向上の支援活動が必要（防災訓練参加等も）。<br>・保護者と教職員の両方の意見を知りたいです。                                       |
| すっきり下校    | 相談体制の整備<br>保⑨59 教⑨96                                                         | b      | ・スクールカウンセラーの取組等はさらに発信していきたい。                                            | A        | B        |                                                                                                                           |
|           | 一人一人と向き合う時間と安全な場の確保<br>保⑩84 児④86 教⑧92                                        | a      | ・教育相談やサポートルーム、いじめ対応など組織的の全体的な対応を継続する。                                   | A        | A        |                                                                                                                           |
| ふるさと教育    | 幼保、中学校との繋がり<br>CSと連携した外部講師の獲得<br>保⑤93 児⑤93 教⑤92 と⑩88                         | a      | ・幼保とは今後継続的な会議の場を設定し連携力を上げていく。<br>・外部講師を紹介していただき児童のよい経験になった。             | A        | A        | ・学習発表会から教育の日は短いスケジュールでの実施のため先生方の苦労が感じられます。児童の見せるステージのための全員の参画意識の醸成など毎年教えられる発表です。<br>・週休日や長期休業日のグラウンドや体育館を活用したイベントも必要かと思う。 |
| インクルーシブ教育 | 福祉の学習やボランティア<br>多様性の配慮や理解<br>教育相談や関係機関との連携<br>保⑥56 児⑥80 教⑪56 と⑫100           | b      | ・教育課程に位置づけているが単発的になる部分ではあるので、より日常的な取組を持続可能な観点で考え実施していきたい。               | A        | B        | ・児童および教職員の一層の努力に期待します。<br>・車椅子等の実践を増やすべき。<br>・より学校の内部を知ることができれば幸いです。                                                      |
| キャリア教育    | はまなすの日の取組<br>表現力育成を図る総合的な学習の時間の充実<br>昨年度より50名増の外部講師活用<br>保⑧95 児⑦94 教⑬83 と⑮88 | a      | ・外部講師の活用が進んできた。<br>・自己実現の経験を積むことで自らのキャリア形成を自分で計画実行振り返りができる児童への育成を続けていく。 | A        | A        |                                                                                                                           |

■ 自己評価達成状況

|   |                |
|---|----------------|
| a | ほぼ達成できた（8割以上）  |
| b | 概ね達成できた（6割以上）  |
| c | 十分ではない（4割以上）   |
| d | 達成できなかった（4割未満） |

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

|   |                                |
|---|--------------------------------|
| A | 自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。   |
| B | 自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。  |
| C | 自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。 |
| D | 自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。         |